

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会
(編・著)

2010年度 後期

学生による授業評価報告書

巻頭言

第1章 授業評価の概要

第2章 科目・クラス別評価

総合教育系科目

英語科科目

保育科科目

第3章 自由記述による授業評価

付 録 満足度調査報告

沖縄キリスト教短期大学

2010

Introduction to the term end questionnaire results

Randolph H. Thrasher, President

The data from this term's questionnaire continues to show that our students rate their teachers and their classes very highly. The results for all questions were even more positive than in the Spring term. This shows we are doing even better in the second term than we did in the first. However the problem that I pointed out in my comments on the Spring term data remains. There was a slight rise in the mean of the results for question 15 but our students still report studying of their classes less than 30 minutes a week. As I mentioned in my comments on the Spring term results, we need to help our students realize that they must develop the study habits now that will allow them to continue to learn throughout their lives.

2010年度後期・学生による授業評価

学長 Randolph H. Thrasher

今学期の調査結果においても、学生たちは教員と授業を非常に高く評価していることが分かりました。全質問項目において前期を上回る値となっており、私たちの教育活動は前期よりさらに高評価であることが示されています。しかし、前期の巻頭言で指摘した点に関しては未だ課題が残ったままです。設問 15 に対する回答は、平均値がわずかに上昇したものの、学生たちの授業の準備にかかる自習時間は週あたり 30 分を下回っています。前期の巻頭言でも申し上げたように、私たちは学生たちに、生涯を通して学び続けるために学習習慣の確立が重要であると自覚させるよう導いていかなければなりません。

沖縄キリスト教短期大学自己点検・評価・改善委員会委員（2010年度）

Randolph H. Thrasher（委員長・学長）

城間 仙子（委員・短期大学部長・英語科長）

川西 康裕（委員・保育科長）

青野 和彦（委員・総合教育系主任）

金 永秀（委員・宗教部長）

内間 清晴（委員・図書館長）

高崎 正名（委員・キャリア開発部長）

山城 眞紀子（委員・教学部長）

上原 明子（委員・入試部長）

与那覇 明弘（委員・事務局長）

武村 朝吉（委員・企画推進課長）

執筆者

張本文昭（総合教育系）

作田真由子（英語科）

大山伸子（保育科）

以上

沖縄キリスト教短期大学
2010年度後期
学生による授業評価報告書

第1章

授業評価の概要

1 学生による授業評価の概要

2010 年度後期の授業評価アンケートを、同年 1 月（当該学期末に近い時期）に実施した。すべての開講科目クラスを対象とした。105 科目、181 クラスについて分析を行った。分析に投与された評価票は、3,522 件であった。評価は 5 段階方を採用しており、1 点を最低、5 点を最高の評価としている。

各設問に対する数量的な結果については、後に度数分布表および棒グラフとして示す。以下、各設問に対する結果に対して若干の解説、解釈を述べる。

Q1 「先生は、学期始めに授業の目的およびこの授業で学生のなすべきことについて明確に説明しました」

「5」評価が 77%、「4」評価を加えると 93%であったことから、授業目的や概要の説明、授業ガイダンス等は適切に実施されていると捉えることができる。

Q2 「先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました」

「5」評価が 76%、「4」評価を加えると 92%であったことから、Q1「授業目的」と同様に、適切に説明がなされていると捉えることができる。

Q3 「先生は、授業について熱意がありました」

「5」「4」評価を加えると 95%であり、平均値も 4.76 であったことから、教員は十分な熱意を持って授業を実施していると学生から捉えられている。

Q4 「先生の授業は、とてもわかりやすかった」

「5」と「4」の評価を合わせると 87%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。2010 年度前期より若干評価が高くなっているが、教員は学生の多様化を鑑み、さらなる努力が必要と思われる。

Q5 「先生の授業の準備はよくできていました」

「5」と「4」の評価を合わせると 92%であったことから、教材研究や準備等は適切になされていると考えられる。本設問に対する結果は Q3 とも共通する傾向が認められた。

Q6 「先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました」

「5」と「4」の評価を合わせると 90%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。

Q7 「先生の授業は、時間通りに始まり、時間通りに終わりました」

評価平均が 4.71 であり、設問中最も高い結果となった。授業時間管理がほぼ適切になされていると捉えることができる。

Q8 「授業でわからないことを質問する機会や工夫がありました」

「5」と「4」の評価を合わせると91%であり、おおむね良好な結果であると捉えて良いと思われる。

Q9 「先生は、授業を乱す行為(私語、携帯電話、居眠り、中座等)」に対して適切に対応していました。」

「5」と「4」の評価を合わせると90%であり、おおむね適切な対応を取っているものと考えて良いだろう。

Q10 「私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するように勧めたい」

「5」と「4」の評価を合わせると87%であり、学生は授業に対して満足したと考えても良いだろう。

Q11 「私は、この授業に熱意を持って取り組みました」

「5」と「4」の評価を合わせると89%であり、教員同様、学生たちも熱心に取り組んでいると評価して良いだろう。

Q12 「私は、授業の学習にあたり、シラバス(講義要項・学習計画)を参考にしました」

「5」評価が57%、「4」の評価は19%、「3」は17%である。つまり93%の学生は学習に際してシラバスを参考にしている。例年、評価平均が4.0前後であるのが本設問である。標準偏差が1.0を超え、回答にばらつきがあると捉えることもできるが、今回も設問項目の妥当性を指摘したい。現実的には、学生にとっては登録前における授業選択の資料として、また教員にとっては授業初回におけるオリエンテーションやガイダンスのための資料として運用されることが多く、本設問にある「学習」場面では資料としての意味が本来的にあるのか、という問いである。例年の傾向が変わらないことから、設問文を再検討する必要があると考えられる。

Q13 「私は、授業中、私語や携帯電話・中座など、授業を乱す行為をしませんでした」

Q11における結果と共通する傾向にあり、「5」と「4」の評価を合わせると91%であった。

Q14 「私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした」

「5」と「4」の評価を合わせると85%であった。結果はほぼ、Q11、Q13と共通する傾向であった。

Q15 「私は、この授業のために週あたりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました」

評価平均は1.82であり、他の設問と比較して、毎年最低の値を示し、週あたりの学習時間は、学生の89%は1時間以内という結果である。本学学生は授業時間以外において、あまり学習時間を設けていないと言える。

Q16 「この授業を全体的に評価してください」

平均は 4.19 でおおむね肯定的な評価が得られていると考えられる。「5」と「4」を合わせると 78%であった。一方で「3」「2」「1」「0」の回答は 22%であり、改善の余地はまだあると思われる。

Q17 「私は、この先生の別の科目も受講したいと思います」

教員に対する期待を示す項目であると捉えることができよう。「5」と「4」を合わせると 82%、平均値は 4.45 であり、教員は学生の期待に応えられるような、日々の努力が求められている。

Q1授業の目的

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	11	.3	.3	.3
2	22	.6	.6	.9
3	185	5.3	5.3	6.2
4	589	16.7	16.7	22.9
5	2710	76.9	77.1	100.0
合計	3517	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	3522	100.0		

Q2成績評価方法

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	13	.4	.4	.4
2	43	1.2	1.2	1.6
3	218	6.2	6.2	7.8
4	568	16.1	16.1	23.9
5	2676	76.0	76.1	100.0
合計	3518	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	4	.1		
合計	3522	100.0		

Q3先生の熱意

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	5	.1	.1	.1
2	22	.6	.6	.7
3	146	4.1	4.2	4.9
4	477	13.5	13.6	18.5
5	2867	81.4	81.5	100.0
合計	3517	99.9	100.0	
欠損値 システム欠損値	5	.1		
合計	3522	100.0		

Q4わかりやすい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	46	1.3	1.3	1.3
2	96	2.7	2.7	4.0
3	297	8.4	8.4	12.4
4	593	16.8	16.9	29.3
5	2484	70.5	70.6	99.9
合計	3516	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	3522	100.0		

Q5準備よい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	7	.2	.2	.2
2	43	1.2	1.2	1.4
3	214	6.1	6.1	7.5
4	536	15.2	15.2	22.7
5	2716	77.1	77.2	99.9
合計	3516	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	3522	100.0		

Q6理解興味の工夫

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	18	.5	.5	.5
2	66	1.9	1.9	2.4
3	268	7.6	7.6	10.0
4	588	16.7	16.7	26.7
5	2575	73.1	73.2	99.9
合計	3515	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	.2		
合計	3522	100.0		

Q7時間どおり

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	14	.4	.4	.4
2	37	1.1	1.1	1.5
3	179	5.1	5.1	6.6
4	495	14.1	14.1	20.7
5	2793	79.3	79.4	100.1
合計	3518	99.9	100.1	
欠損値 システム欠損値	4	.1		
合計	3522	100.0		

Q8質問の機会

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	17	.5	.5	.5
2	47	1.3	1.3	1.8
3	258	7.3	7.3	9.1
4	543	15.4	15.4	24.5
5	2646	75.1	75.3	99.8
合計	3511	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	11	.3		
合計	3522	100.0		

Q9授業妨害へ対処

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	15	.4	.4	.4
2	36	1.0	1.0	1.4
3	281	8.0	8.0	9.4
4	635	18.0	18.1	27.5
5	2549	72.4	72.5	100.0
合計	3516	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	3522	100.0		

Q10薦めたい

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	40	1.1	1.1	1.1
2	91	2.6	2.6	3.7
3	311	8.8	8.8	12.5
4	567	16.1	16.1	28.6
5	2507	71.2	71.3	99.9
合計	3516	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	3522	100.0		

Q11熱意を持って参加

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	11	.3	.3	.3
2	41	1.2	1.2	1.5
3	331	9.4	9.4	10.9
4	746	21.2	21.2	32.1
5	2386	67.7	67.9	100.0
合計	3515	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	7	.2		
合計	3522	100.0		

Q12シラバス参考

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	126	3.6	3.6	3.6
2	123	3.5	3.5	7.1
3	591	16.8	16.8	23.9
4	679	19.3	19.3	43.2
5	1994	56.6	56.7	99.9
合計	3513	99.7	99.9	
欠損値 システム欠損値	9	.3		
合計	3522	100.0		

Q13授業を中座しない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	8	.2	.2	.2
2	38	1.1	1.1	1.3
3	283	8.0	8.0	9.3
4	735	20.9	20.9	30.2
5	2452	69.6	69.7	99.9
合計	3516	99.8	100.0	
欠損値 システム欠損値	6	.2		
合計	3522	100.0		

Q14遅刻欠席ない

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	24	.7	.7	.7
2	97	2.8	2.8	3.5
3	377	10.7	10.7	14.2
4	708	20.1	20.1	34.3
5	2300	65.3	65.4	99.7
合計	3506	99.5	99.7	
欠損値 システム欠損値	16	.5		
合計	3522	100.0		

Q15予習復習時間

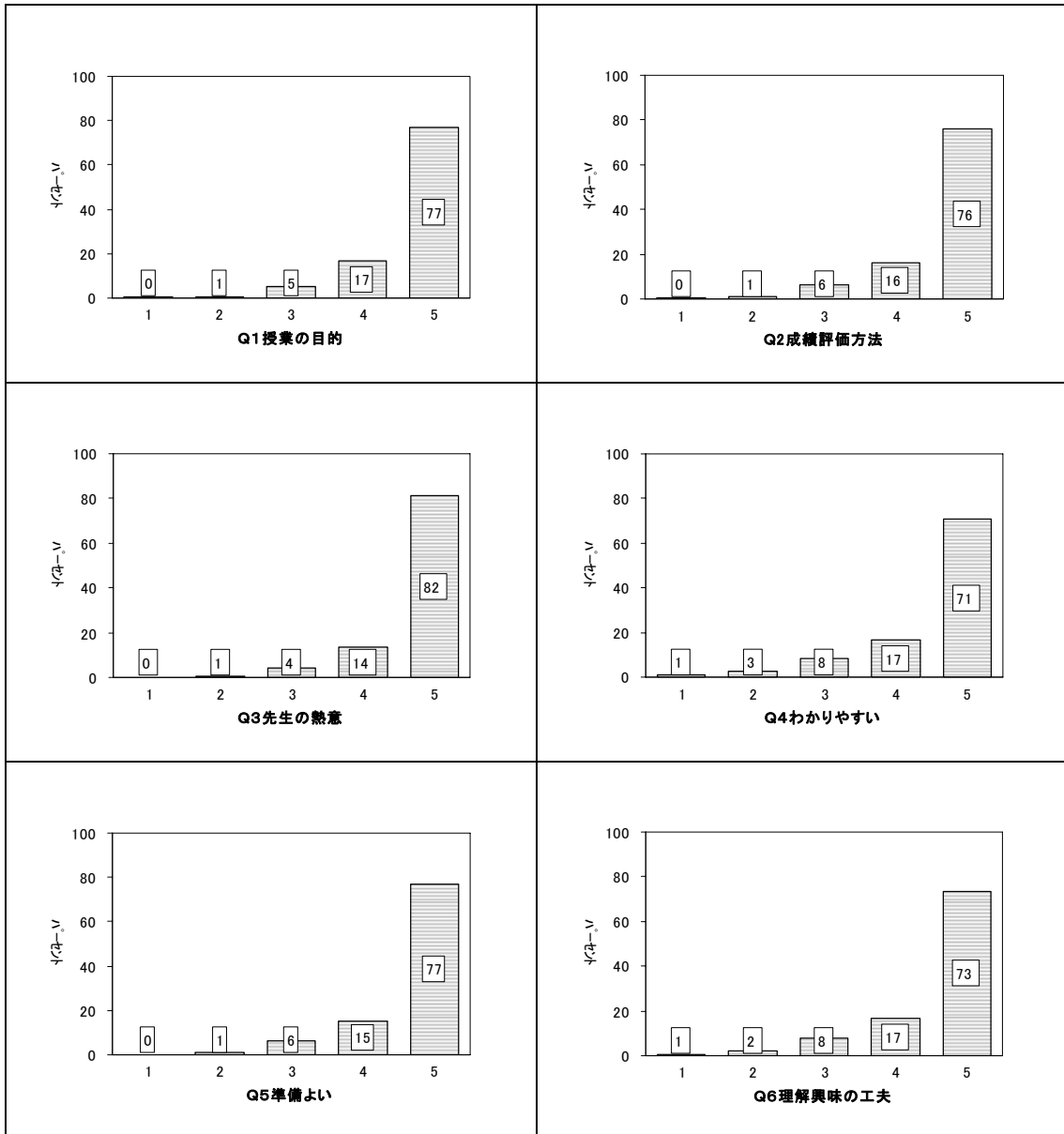
	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 1	1552	44.1	44.1	44.1
2	1084	30.8	30.8	74.9
3	505	14.3	14.4	89.3
4	124	3.5	3.5	92.8
5	71	2.0	2.0	94.8
合計	3336	94.7	94.9	
欠損値 システム欠損値	186	5.3		
合計	3522	100.0		

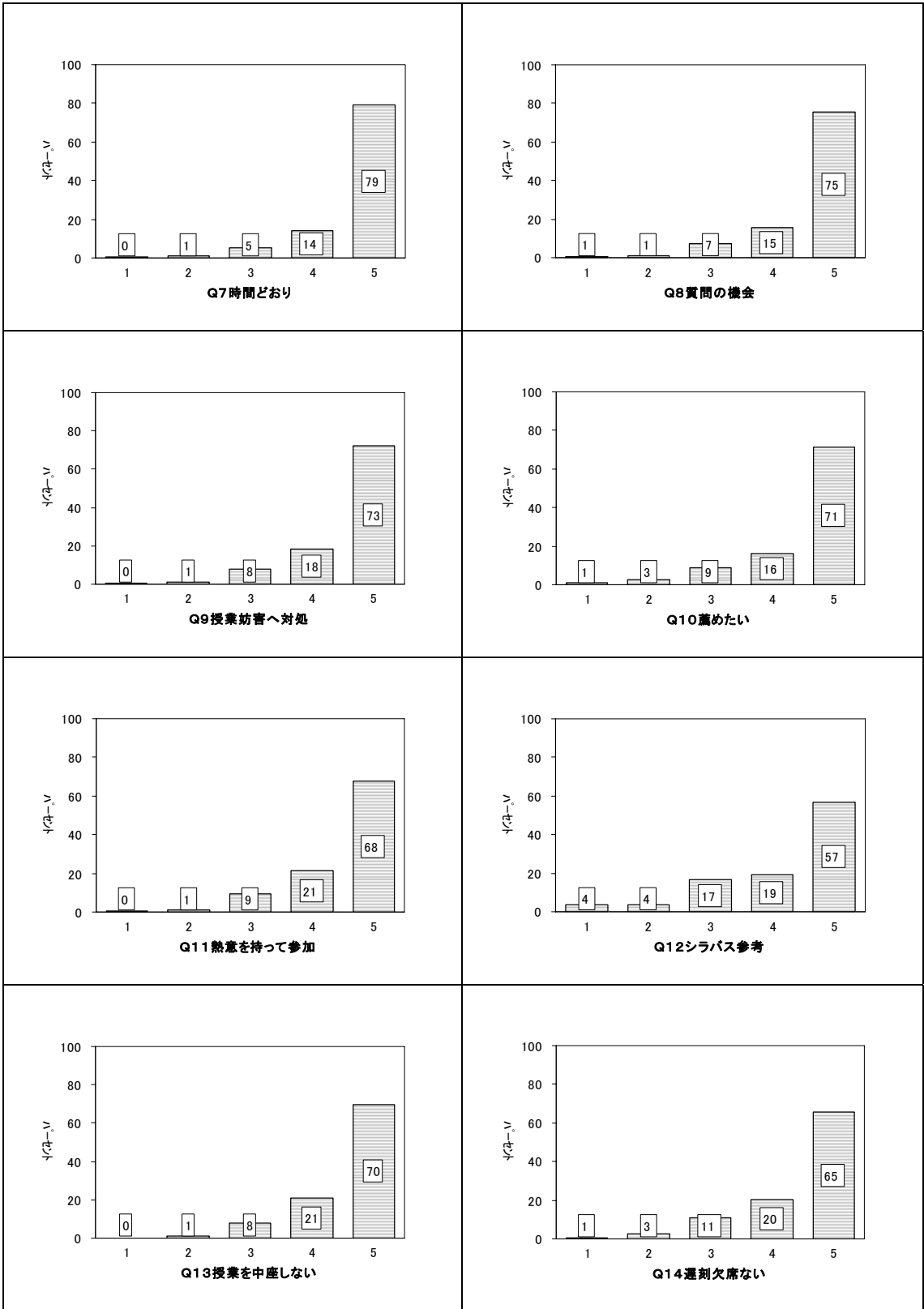
Q16全体的評価

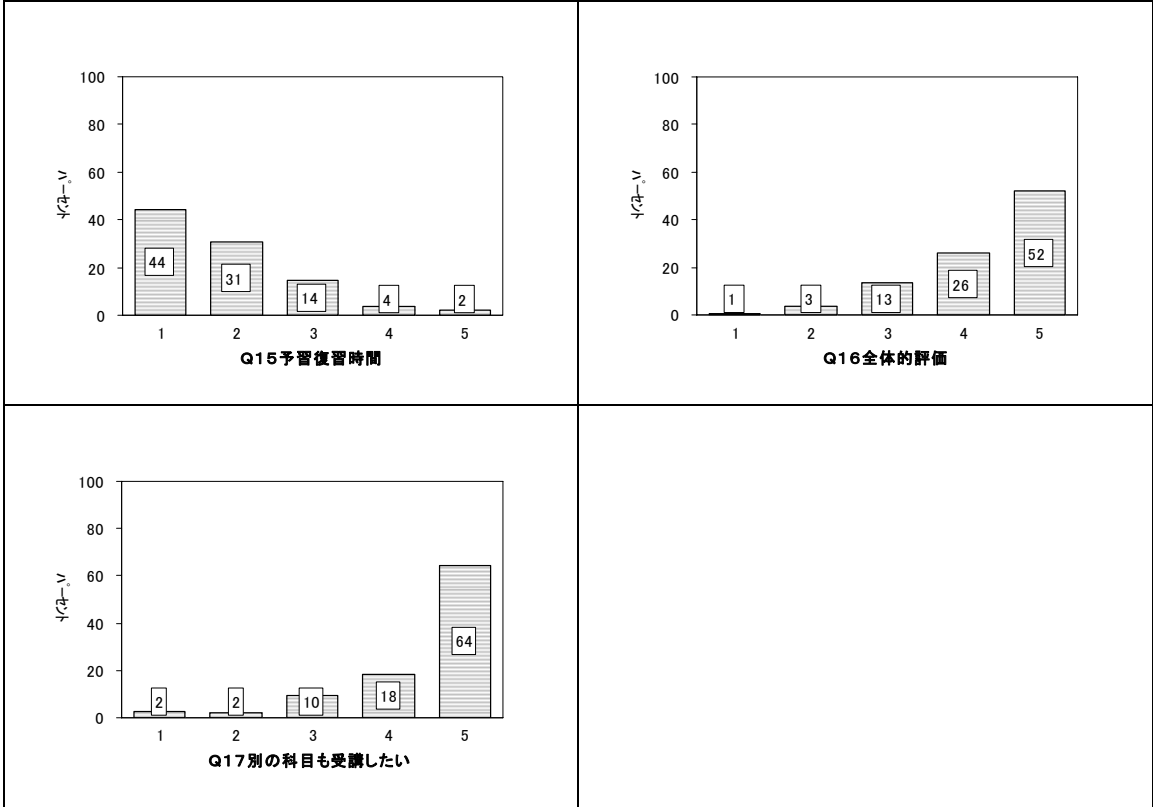
	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 0	104	3.0	3.0	3.0
1	16	.5	.5	3.5
2	121	3.4	3.4	6.9
3	468	13.3	13.3	20.2
4	926	26.3	26.3	46.5
5	1829	51.9	52.0	98.5
合計	3464	98.4	98.5	
欠損値 システム欠損値	58	1.6		
合計	3522	100.0		

Q17別の科目も受講したい

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1	84	2.4	2.4	2.4
	2	81	2.3	2.3	4.7
	3	334	9.5	9.5	14.2
	4	635	18.0	18.1	32.3
	5	2262	64.2	64.3	96.6
合計		3396	96.4	96.6	
欠損値	システム欠損値	126	3.6		
合計		3522	100.0		







2 全体の評定結果

短大生全体の平均値、標準偏差等を求めたところ、17項目中16項目で平均値が4.00を超え、学生は概ね大学が提供する授業に対して肯定的に評価していると捉えて良いだろう。平均値が4.00に満たない項目はQ15「宿題や予習に費やす時間」についてであり、このことはこの数年来、変わらない結果である。他の項目と比較して特徴的な結果を常に示すこの項目については、教員らによる議論が必要だと考える。

教員への評価を示すQ1-Q10のみの平均値は4.64であり、教員や授業に対しては、概ね肯定的に評価されている。

学生の自己評価に相当するQ11-Q15のみの平均値は3.85であり、突出して低い値を示すQ15を除外した平均値は4.46であった。学生は予習や復習はしないが、それ以外に関しては肯定的に自己評価を下していると見て良いだろう。

回答のばらつきを示す標準偏差の結果に関しても、例年同様、Q12, 16が平均値1.00を超え、この数年来、同様の傾向が認められる。1.00に満たない項目についても、その傾向は例年あまり変わることがない。これらのことに対する解釈については、教員らによる議論が必要だと考える。

評価項目別評定結果（全体）

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	3517	1	5	4.70	.626
Q2成績評価方法	3518	1	5	4.66	.682
Q3の熱意	3517	1	5	4.76	.567
Q4わかりやすい	3516	1	5	4.53	.860
Q5準備よい	3516	1	5	4.68	.661
Q6理解興味の工夫	3515	1	5	4.60	.752
Q7時間どおり	3518	1	5	4.71	.647
Q8質問の機会	3511	1	5	4.64	.719
Q9授業妨害へ対処	3516	1	5	4.61	.714
Q10薦めたい	3516	1	5	4.54	.847
Q11熱意を持って参加	3515	1	5	4.55	.737
Q12シラバス参考	3513	1	5	4.22	1.072
Q13授業を中座しない	3516	1	5	4.59	.704
Q14遅刻欠席ない	3506	1	5	4.47	.844
Q15予習復習時間	3336	1	5	1.82	.962
Q16全体的評価	3464	0	5	4.19	1.136
Q17別の科目も受講したい	3396	1	5	4.45	.940

3 学科ごとの評定結果

3.1 総合教育系の評定結果

全体的な傾向としては、ほぼ例年と同様であり、また英語科、保育科の傾向とも共通するように受け止めることができる。

総合教育系の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	697	1	5	4.71	.608
Q2成績評価方法	697	1	5	4.70	.663
Q3の熱意	697	1	5	4.79	.513
Q4わかりやすい	697	1	5	4.54	.857
Q5準備よい	697	1	5	4.74	.600
Q6理解興味の工夫	695	1	5	4.63	.730
Q7時間どおり	697	1	5	4.78	.558
Q8質問の機会	696	1	5	4.62	.752
Q9授業妨害へ対処	697	1	5	4.61	.703
Q10薦めたい	697	1	5	4.53	.900
Q11熱意を持って参加	697	1	5	4.52	.762
Q12シラバス参考	697	1	5	4.17	1.106
Q13授業を中座しない	696	1	5	4.56	.741
Q14遅刻欠席ない	695	1	5	4.42	.872
Q15予習復習時間	660	1	5	1.63	.875
Q16全体的評価	686	0	5	4.19	1.158
Q17別の科目も受講したい	676	1	5	4.42	1.016

3.2 英語科の評定結果

前期に比べて全般に評価が高く、教員要因である Q1～Q10 の項目については、すべて 4.5 以上の評価を得ている。Q1「授業の目的」、Q2「成績評価方法」、Q3「熱意」、Q5「準備よい」、Q7「時間どおり」については 4.7 以上の評価が出ている。Q4 の「わかりやすい」も 4.55 と、前期に比べて評価が上昇している。学生要因の Q11～15 も全般に評価が上昇している。この学生要因については、前期からの学習の積み重ねにより、学生側に勉学の意欲が高まった結果かもしれないと考えられる。

3.3 保育科の評定結果

教員要因に関しては、Q3「教員の熱意」が 4.76 ともっとも高く、前年度（前期 4.72 / 後期 4.82）、今年度前期の 4.73 と高い数値が推移していることから、教員の熱意に

対する学生の高い評価が定着していることがわかる。また、Q1からQ9に至るまで、今年度前期に比べ後期はすべて数値が上がっていることが特徴的である。

学生要因としては、Q15「予習復習時間」が1.76であり、前年度（前期1.82／後期1.72）及び今年度前期の1.77と低数値が恒常化しており、学生の自主的な学習習慣を促す手立てが望まれる。

英語科の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	865	1	5	4.74	.574
Q2成績評価方法	866	2	5	4.69	.633
Q3の熱意	866	1	5	4.73	.625
Q4わかりやすい	865	1	5	4.58	.801
Q5準備よい	865	1	5	4.71	.633
Q6理解興味の工夫	865	1	5	4.61	.741
Q7時間どおり	866	1	5	4.78	.526
Q8質問の機会	862	1	5	4.69	.671
Q9授業妨害へ対処	865	1	5	4.61	.714
Q10薦めたい	866	1	5	4.59	.804
Q11熱意を持って参加	866	1	5	4.55	.713
Q12シラバス参考	865	1	5	4.37	.962
Q13授業を中座しない	866	1	5	4.53	.710
Q14遅刻欠席ない	863	1	5	4.27	.950
Q15予習復習時間	825	1	5	2.13	.993
Q16全体的評価	851	0	5	4.26	.982
Q17別の科目も受講したい	822	1	5	4.54	.852

保育科の評定結果

記述統計量^a

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
Q1授業の目的	1955	1	5	4.67	.653
Q2成績評価方法	1955	1	5	4.64	.709
Q3の熱意	1954	1	5	4.76	.558
Q4わかりやすい	1954	1	5	4.50	.885
Q5準備よい	1954	1	5	4.65	.691
Q6理解興味の工夫	1955	1	5	4.59	.765
Q7時間どおり	1955	1	5	4.66	.717
Q8質問の機会	1953	1	5	4.62	.726
Q9授業妨害へ対処	1954	1	5	4.61	.719
Q10薦めたい	1953	1	5	4.52	.846
Q11熱意を持って参加	1952	1	5	4.56	.738
Q12シラバス参考	1951	1	5	4.17	1.101
Q13授業を中座しない	1954	1	5	4.62	.686
Q14遅刻欠席ない	1948	1	5	4.58	.762
Q15予習復習時間	1851	1	5	1.76	.948
Q16全体的評価	1927	0	5	4.15	1.188
Q17別の科目も受講したい	1898	1	5	4.41	.946

4 自由記述による評価

4.1 総合教育系の授業について

授業評価の評言の量は、3項目ともに総合教育系科目は他学科の科目と比較して多く記述されている傾向が認められる。「改善点に関する記述」としては、「わかりにくいところがあった」「授業展開のペースが速い」「課題が多い」「話し方（早口、注意の仕方など）」等が目立った。これらは教員として今後考慮すべき点である。

4.2 英語科の授業について

評定結果にも現れているとおり、担当教員の熱意や授業運営に関する工夫にたいして「授業の良い点」を挙げている学生が多い。「質問しやすい」「わかりやすい」「楽しい」「面白い」など。改善点に関しては、「授業のスピードが速い」がほんの少し見受けられる。もう少しの工夫が望まれる。

4.3 保育科の授業について

「1:授業の良い点」は84件あり、「わかりやすい」のキーワードが随所に出ており、良い点の中心的な評価になっている。その内容も具体的な記述になっており、ビデオやパワーポイント、新聞、教員作成のプリン資料などを駆使していることや、事例や教員の体験談などが、わかりやすい授業につながっていることが分かる。

「2:改善して欲しい点」は28件あり、「課題の内容がよく分からない」「講義の狙いがよく分からなかった」など、課題や提出物、テストの範囲など授業の進め方に関する記述が見られた。

「3:授業に対する感想等」は69件あり、「わかりづらかった」「難しすぎる」など否定的な意見が6件ある一方で、「楽しい」「わかりやすい」などの肯定的な意見が多数を占めており、その記述内容も豊富で洞察力の深さを感じさせた。

おわりに

前期の自由記述において、「授業のスピードが速い」という意見がかなり多く見られたが、後期はその記述がほとんど見当たらない。入学時に比べて後期はゆとりを持ち、落ちついた学生生活を送っていることが推察される。

全学科の共通事項として、学生の「予習復習時間」の極端な低さが挙げられる。「予習復習時間」について、2002年度から9年間のデータを遡って見てみると、おおよそ2.00～1.70の数値を示し恒常的に低いことがわかる。さらに、各年度とも、前期に比べて後期の数値が低くなっている。前期は意欲をもって「予習復習」に取り組んでいるが、後期はやや怠っていると捉えることもできる。

低い数値が恒常化している「予習復習時間」を、どのように改善していくか、短大挙げて取り組むべき大きな課題である。

学生による授業評価について

調査期間： 前期 7 月
後期 1 月
調査対象： 全クラス

学生のみなさまへ：

この調査は、本学の教育活動を充実・改善するための基礎資料を得るために、全クラスについて実施されるものです。なお、この調査データはコンピュータにより統計処理され、担当教員に個々の生データを閲覧させることはありません。「成績」に影響を及ぼすようなことはありません。またプライバシー保護については十分留意します。率直な（真摯な）評価をお願いします。

自己点検・評価委員会委員長
沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学学長

※ 記入終了後、指名された学生が回収します。 提出先：教務課

PART I 設問 1～17 について、評価欄のあてはまる数字（5～1）に○をつけてください。

評価の基準： 5 非常にそう思う 4 そう思う 3 どちらとも言えない 2 そう思わない 1 全くそうは思わない

	評 価 欄				
1. 先生は、学期の初めに授業の目的及びこの授業での学生のなすべきことについて明確に説明しました。	5	4	3	2	1
2. 先生は、宿題・試験・成績評価の仕方などについて説明がはっきりしていました。	5	4	3	2	1
3. 先生は、授業について熱意がありました。	5	4	3	2	1
4. 先生の授業は、とてもわかりやすかった。	5	4	3	2	1
5. 先生の授業の準備はよくできていました。	5	4	3	2	1
6. 先生は、学生の理解・興味を深めるためにいろいろ工夫をしていました。	5	4	3	2	1
7. 先生の授業は、時間どおりに始まり、時間どおりに終わりました。	5	4	3	2	1
8. 授業でわからないことを質問できる機会や工夫がありました。	5	4	3	2	1
9. 先生は、授業を乱す行為（私語・携帯電話（メールを含む）・居眠り・中座等）に対して適切に対応していました。	5	4	3	2	1
10. 私は、この先生のこの科目を、他の学生や他大学の学生にも受講するよう薦めたい。	5	4	3	2	1
11. 私は、この授業に熱意をもって取り組みました。	5	4	3	2	1
12. 私は、授業の学習にあたり、シラバス（講義要項・学習計画）を参考にしました。	5	4	3	2	1
13. 私は、授業中、私語や携帯電話（メール等）・中座など、授業を乱すような行為はしませんでした。	5	4	3	2	1
14. 私は、この授業で遅刻・欠席はほとんどありませんでした。	5	4	3	2	1
15. 私は、この授業のために週当たりほぼ次の時間、宿題や予習などをしました。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 (3 時間以上) 4 (2 時間ぐらい) 3 (1 時間ぐらい) 2 (30 分ぐらい) 1 (ほとんどしなかった)				
16. この授業を全体的に評価してください。 ※当てはまる数字に○をつける。	5 秀	4 優	3 良	2 可	1 不可
17. 私は、この先生の別の科目も受講したいと思います。	5	4	3	2	1

科 目 名	クラス名 ()				
学籍番号*					男
学 年	1	2	3	4	女
所属学科	1 英語科		2 保育科		
	3 英語コミュニケーション学科				
	4 科目等履修生				
入試区分	1 一般入試		2 推薦入試		3 AO入試

* (学籍番号) できるだけ記入してください。

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

(裏面に記入)

- この授業のよい点
- この授業に改善してほしい点
- この科目や担当者の授業方法について、感想・意見・印象に残ったこと。
- 学長へ（聞いてほしいこと）

(裏のページへ進んでください⇒)

PART II 次の質問に礼節を守って自由に記述してください。

※この記述は統計的に処理され、この回答用紙を担当教師が直接に閲覧することはありません。

1. この授業のよい点															
2. この授業に改善してほしい点															
3. この科目や担当者の授業法について、感想・意見・印象に残ったこと。															
4. 学長へ (聞いてほしいこと)															